# 一　般　演　題

## 1. 放射線治療後の $^{67}$Ga シンチグラフィにおける肺野集積——Lung index による検討——

岡本　欣晃　平田みどり　松井　律夫
北垣　一　山崎　克人　井上　善夫
橋村　孝久　今中　一文　河野　通雄
（神大・放）
金川　公夫　（県立こども病院・放）

肺癌の放射線治療後に $^{67}$Ga シンチグラフィを施行した37例を対象に，腫瘍部以外の肺野の集積について検討した．治療の前後に $^{67}$Ga シンチグラフィを施行した17例については，肺野集積の指標として Bisson らの報告を参考にして肝臓を16, back ground を0とする lung index を算出した．

放射線治療前の lung index は平均4.2±0.84であり正常対象群の平均4.8±0.36と有意差は認められなかったが，治療後では7.2±0.99と治療前，対象群のいずれとも有意差を認めて上昇していた．

肉眼的に治療後に肺野に異常集積が認められた14例について，集積は，照射野を含む全肺野の軽度のびまん性集積で両側肺門集積の増強を伴うもの(3例)，照射野以外の肺野(特に下肺野に多い)に肝臓と同程度の集積を認めるもの(6例)と，肺野の限局性集積(3例)の3タイプに分類された．限局性の集積は，2例は照射野に一致した肺臓炎，1例は肺内転移巣への集積であった．

放射線治療後，照射野に一致した集積は2例に認められたのみであったが，これは照射から $^{67}$Ga シンチまでの時期が関係していると考えられる．また，6例においては，照射野は逆に defect として認められ，放射線肺線維症の部位には集積しない傾向にあった．

肺野のびまん性集積は，放射線照射が照射野外の肺野にも影響を与えていることを示唆するものであり，同時期，および1か月後の胸部写真で明らかな変化を認めないことが多く，ごく軽度の間質性変化の可能性が考えられたが，強い集積は予後不良の症例に見られることが多く，注意が必要であると思われた．

## 2. 呼吸器疾患におけるガリウムシンチグラフィの有用性

太田　仁八　琴浦　肇（和歌山赤十字・放）
中谷　清樹　小林　秀机　杉田　孝和
堀川　禎夫　鈴木雄二郎　西山　秀樹
（同・呼）

呼吸器疾患におけるガリウムシンチグラフィの有用性はすでに確立されているが，実際の利用状態について検討を加えた．対象は平成元年度一年間に呼吸器科より依頼のあった42例であり，うち26例は悪性腫瘍，その他の16例には，間質性肺炎や過敏性肺炎などのいわゆるびまん性肺疾患が多かった．核医学検査が高価なことから，胸部単純写真や CT で得られなかったか，あるいはそれらをしのぐ情報を与えたもののみを有用とすると，悪性腫瘍では35%(9/26)，その他の疾患では69%(11/16)が有用であった．ガリウムシンチグラフィが悪性腫瘍ではたす役割は必ずしも高いとはいえないが，びまん性肺疾患では重要な役割をはたす例が多いと考えられた．例として悪性中皮腫，肺癌，過敏性肺炎，好酸球性肺炎を提示した．

## 3. $^{123}$I-IMP が高度に集積した原発性肺癌の一例

末松　徹　丸田　力　藤原　博文
水谷　正弘　柳瀬　正和　大林加代子
高田　佳木　楢林　勇（兵庫成人病セ・放）
山本　裕之　（同・呼）
河本　英作　（兵庫柏原病院・内）
堀尾　光三　（神大・二病理）

$^{123}$I-IMP 肺シンチグラフィ後期像では，無気肺や炎症に一致して異常集積がみられる．腫瘍部は集積欠損像を呈し，腫瘍周辺の肺実質に集積増加を認めるとされている．

今回，われわれは腫瘍部に高度の集積増加を認めた原発性肺癌例を経験したので報告した．症例は55歳の男性であった．平成元年3月2日に胸部異常陰影の精査のため，当院へ紹介された．自覚症状はなかった．診察所見では，右鎖骨上窩に腫大したリンパ節を数個触知した．

Presented by Medical*Online